

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501107), 法人名 (社会福祉法人 室蘭天照福祉会), 事業所名 (グループホーム フォレスト柏木 かえでユニット), 所在地 (室蘭市柏木町45-10), 自己評価作成日 (平成24年1月26日), 評価結果市町村受理日 (平成24年5月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が喜んで頂ける様、行事やドライブ等、家族の方に変わり、各入居者の方への支援を今後も今まで以上に、行い家族の方との協力のもと、支援をしていきたいと思ひます。又、生活する上で、スタッフ協力のもと、入居者の方の笑顔を引き出し、満足して頂ける様、日々の関わりを大事にし、コミュニケーションを交わし、職員が存在が、入居者の方にとって、家族の一部となって頂ける様支援していきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501107&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成24年3月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来10年近くが経過したこの事業所では、長期にわたりサービス向上に向けた取り組みが行われ、ゆったりとした時間経過の中で安定的な時期を迎えている。また開設当初からの事業所に携わっている職員や利用者も多いことは、理念に基づく安定したサービス提供の結果である。事業所は太平洋を見下ろす丘陵の中腹にあり、広大なパークゴルフ場を併設している。利用者本位を常に念頭におき、介護計画や実践はもちろんのこと、接遇やサービス提供の場面において、利用者のペースにあったケアサービスを行っている。その中で職員は、専門的な知識を得るために日夜学習や自己研鑽、研修会参加によるスキルアップなど、更なる充実を目指した努力を管理者のもとで実践しており、今後に大きな期待と充実が見込まれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user satisfaction.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時、管理者と共に理念を読み上げ確認し、共有し、日々業務についています。	事業所理念は事業所内に掲示されており、毎朝の申し送りの際に読み上げて確認し、共有と実践に向けて取り組んでいる。理念の達成に向けて管理者は職員と話し合い、採用時オリエンテーションや内部研修において学習する機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議も地域の方の参加、夏祭りに参加して地域の方との交流をしている。	法人が利用者及び地域住民を対象とした夏祭りを開催している。隣接するパークゴルフ場を地域に開放したり、地域から事業所へ定期的に傾聴ボランティアが訪れるなど、積極的な交流を行っている。事業所で飼っている犬の様子を近隣の小学生が見に来るなど、日常的な交流が見られる。事業所の防災訓練には、地域からの参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトを受講した者が、地域の研修会の講師を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に職員も参加し、管理者共々サービス状況取り組みを報告し、話し合いを行っている。意見についても参考にしサービス向上に活かしています。	2ヶ月に一度運営推進会議が開催され、事業内容や利用者の状況などについての報告が行われている。運営推進会議委員を中心に防災訓練への参加を地域に呼び掛けている。また、事業所で行う各種行事への参加を案内している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事柄によって判断・指導を仰いでいる。	市役所の介護保険課主幹が運営推進会議に参加している他に、利用者の入・退去状況を月次で報告している。介護保険に係る申請代行や介護報酬請求の細かな疑義についても都度、担当者とも連絡を行い対応をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員は、介護保険法指定基準を正しく理解し、常に身体拘束のないケアに取り組んでいます。	事業所では、身体拘束廃止委員会を立ち上げ委員会において事例検討や職員に向けた研修会を行い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。防犯上の理由により、夜間はユニット玄関を施錠しているが、利用者の行動を抑制するものではない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の中で、議題として取り上げ、その都度防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で制度を使う機会があり、学ぶ機会があった。必要とされる方に大いに支援をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等の際は、説明や疑問点を確認し、お互いが理解納得出来る様行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の意見・不満・苦情を聞く機会を設け、運営に反映しています。	遠方に住む利用者家族もいるため、事業所では2ヶ月に一度程度、生活の様子を「たより」にて知らせている。また、家族には面会時に声かけを行い日常的に意見を聞くなどの取り組みがなされている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議で意見や提案を話せる場を設けています。又、個別に管理者に伝える事もあります。	ホームの運営・収支状況を職員全員に周知している。毎月のユニット会議、年3回の全体会議及び主任者会議などで、職員からの意見・提案を聴取する機会を設けている。提案などは責任者会議(理事・管理者)で検討し、事業運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得に対する応援や研修参加の機会を多く確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会の研修や西胆振グループホーム連絡会に参加して、意見交換や悩みの相談など交流をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方の信頼関係作りを各職員が工夫し、努力し、話しを聞く機会を作り、受け止める様努力しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、コミュニケーションを取り、聞く機会を作り受け止める努力をしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方の要望や必要とされる支援を見極めて対応に努めます。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の目線に合わせ、コミュニケーションを通し一緒に喜怒哀楽を共感し、支え合う関係作りを築いています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを取る努力を行い、共に共感し合いながら、支えていく関係作りを築いています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームとしては、出来る限りの支援に努めています。	利用開始後も地域の商店や理・美容院の利用をはじめ馴染みの場所への外出支援を受けており、地域と交流を行いながら生活を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、入居者同士がぶつかり合う事はあるが、スタッフが間に入り、円満にいく様に努めています。又、入居者の方同士が関わり合える努力もしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、お付き合いを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞き取り、把握に努めると共に、実施出来る様行っています。困難な場合は、話し合いを設けて検討しています。	事業所では利用開始時に、関係機関や本人及び家族から生活歴や介護に関する意向などを確認し、計画作成担当者が中心となってアセスメントを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の方に今までの生活歴を聞き取り、生活ライフが継続出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや声掛け、コミュニケーションを取る等の方法を使いながら、総合的に把握する様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議の中で、介護計画の見直しを行う際に、話し合いの場を設けています。必要になった場合は、関係者・家族の方にも意見を聞いています。	計画作成担当者と職員は、常に利用者本位の介護計画が立案できるよう検討している。6ヶ月単位と利用者の状態変化時にモニタリングを行い、計画の変更や修正がある場合には都度介護記録にその旨を記載し、情報共有が図れる体制となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の行動記録を毎日記入し、情報を共有する際は、連絡ノートを用意し、全スタッフが日々確認しています。又、プラン作成時にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望を取り入れ、柔軟な支援を行います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、ボランティアの方1名に来て頂き、2ヶ月に1度、運営推進会議に民生委員の方に来て頂いています。また、定期的に消防署の方・地域住民の方と共に避難訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を大切に、支援を行っています。	本人及び家族の意向、希望に応じて医療機関を選択し、受診の支援を行っている。主治医から検査結果や治療方針に関する話がある際には家族に連絡し、可能な限り同席してもらるように調整を行っている。身体機能低下が著しく見られ、外来通院が困難な場合は近隣の医療機関の往診が受けられる体制を整備している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、近隣に看護師がおり、定期的に来て頂いています。又、必要とあらば、夜間等でも対応して頂き、密接に関係を築き、各入居者の方へ合った支援を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連帯しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階とはいえないが、各方面の関係者と共に話し合いを持ち、全員で方針の共有を行っています。	事業所では家族及び医療機関と話し合いの結果、終末期対応を行った事例がある。今後も家族の希望や医療機関との連携のもとで都度話し合い、また職員へは終末期対応の研修会を開催しスキルアップを目指し準備を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的ではないが、日頃より看護師に助言や指導を頂いています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防の立会いのもと、地域の方に参加して頂き、避難訓練を行っています。	防災マニュアルを策定し、年間2回の防災訓練を実施している。マニュアルや緊急連絡網の見直しや変更を随時行い、災害用の食糧備蓄や水の確保も行っている。隣接するパークゴルフ場を緊急避難場所として定め、地域の方々も避難できるように話し合っている。救急救命講習を行いAED使用の研修会を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を大切に、日々介護を行っています。	事業所では個人の尊厳と、利用者本位の生活についてカンファレンスや接遇研修を通じて職員間で話し合いを行いながら、個人情報の保護にも配慮し支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々入居者の方のペースを合わせ行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は、望まれる方には、支援していましたが、現在は、認知症の進行や要望がない為、ホームに理容・美容の方に来て頂いています。皆さん不満を持つ事なく利用しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の低下により、各入居者の方に無理強いする事なく、出来る範囲で一緒に行っています。	利用者はテーブル拭きや食器洗いなど、身体機能に合わせて食事の後片付けを職員と一緒にしている。給食委員会にて食事に関する検討を行い、利用者の好みに合った食事提供が行えるように配慮し、法人内の栄養士から適時栄養指導を受ける体制にある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じた支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の方に合わせた支援を行い排泄して頂いています。	オムツ使用者には排泄誘導など可能な限り自立支援を介護計画に添って行い、自立に向けた援助を行っている。また夜間は転倒防止や排泄自立に向けてポータブルトイレを活用するなど、状況に合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多目に摂って頂く、食事に繊維の多い野菜を取り入れる。日々の体操を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴時間に合わせた支援を行っています。入浴中は時間の制限はしていません。	一週間で2～3回入浴ができるように、入浴支援を行っている。また希望時には入浴が可能であり、利用者の希望に添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に注意しなければならない物については、理解している。又、薬の処方箋を直ぐに見られる場所に置き、その都度確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道教室や絵手紙教室、日常体操・カラオケや音楽鑑賞等、楽しみ事や気晴らしの支援を行っています。又、天気の良い日等、ホーム周辺へ散歩に行き、気分転換を図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日等声掛けを行い、戸外に出掛けられる様支援をしています。	事業所周辺での散歩や日光浴など、日常的な外出機会を確保している。また事業所にはパークゴルフ場も隣接しており、日常的な外出の場として利用されている。買い物などの日常的な外出は事業所の食事材料を購入する際に同行でき、年間で数回の外出行事を企画し実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る入居者の方については所持して頂いていますが、そうでない方については仕舞った場所等がわからなくなってしまい、トラブルになる事があるので家族の方の同意を得て代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天窓より、光ががざし、丁度良い明るさとなり、浴室は昔ならではのタイル張りとし、懐かしく感じられる場所となっています。	共用空間には利用者の日常生活の様子がかかるように写真を掲示したり、犬を飼育し日常生活に刺激を与えながら環境整備を行っている。共用スペースの随所にソファがおかれ、気の合う利用者が思いのままに過ごせるように配慮された配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを広く取り、一人になれる空間や他入居者の方と一緒に過ごせる空間となっています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方には、使い慣れた物を持って来て頂ける様、お話しをしています。	居室にはタンスや鏡台、仏壇など使い慣れた品々が持ち込まれており、落ち着いた心地よい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立度を職員が把握し、出来る事の維持が続く様に日々支援をしています。		